



《共通》

◆令和8年12月配布予定あんず「山形3号・新潟大実」予約注文とりまとめについて

JAでは、地域の特産品目として、あんずの振興を図り生産振興をしております。

苗木生産量が少ないため、苗木業者へ事前に苗木生産をお願いする事といたします。

苗木注文については、「果樹総合情報No.果樹生産振興」をご覧ください。

《プルーン・すもも・おうとう・うめ共通》

◆コスカシバ対策薬剤散布について

1. 散布時期:9月上中旬 実際散布日記入 月 日

2. 調 合 量:水100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展 着 剤	10mℓ	—	—
フェニックスフロアブル	25mℓ	コスカシバ	前日

3. 留意事項

①「収穫前日まで」となっている農薬は、収穫24時間前までに散布が終了する事を意味する。

②主枝・主幹部にたっぷりと掛ける。

《プルーン・すもも》

◆収穫前薬剤散布について ※収穫直前の品種に行う。

収穫前の降雨によっては、腐敗果の発生が増加するため、特に収穫前の防除を徹底する。

1. 散布時期:収穫開始2日前 実際散布日記入 月 日

2. 調 合 量:水100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
オンリーワンフロアブル	50mℓ	灰星病	前日
(㊟スカウトフロアブル)	50mℓ	シンクイムシ類	前日

3. 散 布 量 :10a当り⇒350ℓ

4. 留意事項

①「収穫前日まで」となっている農薬は、収穫24時間前までに散布が終了する事を意味する。

②シンクイムシ類の発生が心配される園は、スカウトフロアブル 2,000 倍を加用散布する。スカウトフロアブルに代えて、ディアナWDG5,000 倍(水 100ℓ当り 20g/収穫前日)を使用してもよい。

◆秋季剪定について

この時期の剪定は(枝が貯蔵養分を蓄える前に剪除してしまうので、切った枝が反発しない)樹を落ち着かせる効果がある。また、樹幹内部まで良く日光を当てることで、翌年の花芽の充実を図ることができる。

1. 剪定時期:枝が貯蔵養分を蓄える前の9月上中旬。これより早い時期に行うと、枝の二次伸長を誘発させてしまう。

2. 剪定方法:主枝背面等から発生している、太い徒長枝を中心に剪除する。

日焼けが心配な場合は、基部から20cm程度残す。

大枝は凍害防止のため3月に剪除する。

秋季剪定は樹勢を落ち着かせるために行うので、樹勢の弱い樹は行わない。

また秋季剪定ですべての剪定を行わない。

◆黒斑病対策の特別薬剤散布について（すもも中心）

越冬量削減のため、発生があった園は、2～3回の実施をする。なお、実施前に徒長枝等を整理し、薬液が枝までよく掛るようにしておく事が重要。

1. 散布時期: 下記1回目日程より、晩生種の収穫が終了していれば、数日早めから散布してよい。収穫が終了していない品種は、終了後速やかに実施する。また、散布間隔が14日以上空かないよう注意する。

- ①1回目⇒ 9月上中旬 《実際散布日記入 月 日》
- ②2回目⇒ 9月下旬 《実際散布日記入 月 日》
- ③3回目⇒ 10月上中旬 《実際散布日記入 月 日》

2. 調 合 量: 水100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病虫害	収穫前
I C ボ ル ドー 4 1 2	3kg	—	—
固着性展着剤 K.Kステッカー	33ml	黒斑病	—

3. 散布量: 10a当り⇒400ℓ 以上

4. 散布上の留意事項

- ①収穫中・収穫直前の品種に掛からないよう、実施し、特に混植園や隣接園は注意する。

なお、収穫終了後には、早急に必ず実施をする。

- ② i c ボ ル ドー 6 6 D 並びに 4-12・6-6 式ボルドー液は、登録が無いため使用できない。

- ③ K. Kステッカーに代えて、アビオン E1,500 倍倍（水 100ℓ 当り 66ml）を使用してもよい。

なお、この場合ボルドー液を調合した後に混用する。

- ④天候のよい日を選び、散布ムラのないよう丁寧に散布する。

- ⑤降雨・風雨が多い場合は、散布間隔を10日程度とし実施する。

《あんず》

◆第8・9回薬剤散布・特別薬剤散布(かいよう病対策)について

1. 散布時期: 第8回: 9月上中旬 実際散布日記入 月 日

第9回: 9月下旬 実際散布日記入 月 日

特 別: 10月上旬 実際散布日記入 月 日

※散布間隔が14日以上空かないよう注意する。

2. 調 合 量: 水100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病虫害	収穫前
(固着性展着剤アビオン E)	66ml	—	—
I C ボ ル ドー 6 6 D	2kg	黒斑病	—

3. 散 布 量: 10a当り ⇒ 400ℓ

4. 留意事項

- ①健全葉を保護し、来年度の健全花芽確保のための重要防除となるので必ず防除を行う。

- ②他作物・他品目に薬液が掛からないように十分注意する。

- ③「かいよう病」「せん孔細菌病」が拡がっている。

対策については講習会にてお知らせいたしますが、発生源となる枯れた枝や芽をボルドー液散布前に切除する。

- ④発生が心配な場合は、10月上旬にもう一度、icボルドー66Dの50倍（水100ℓ当り2kg）を特別散布する。

- ⑤付着・耐雨性向上のため、固着性展着剤アビオンEを1,500倍（水100ℓ当り66ml）で使用してもよい。なお、アビオンEに代えて、固着性展着剤K.Kステッカー3,000倍（水100ℓ当り33ml・最後に調合する）を使用してもよい。

- ⑥コスカシバ対策（食入防止）として、第8回にフェニックスフロアブル4,000倍（水100ℓ当り25ml）を加用散布してもよい。

◆秋季剪定講習会・かいよう病対策について

開催日	曜	開催時間	開催場所	担当
9月12日	金	午前 9:00	萩原久光様園(松代城跡西)	伊藤
		午前10:30	小野益一様園(東条)	伊藤

◆杏加工用コンテナの回収について

杏加工用コンテナは加工業者からお借りしている物です。灰色の平コンテナがご自宅または自園に有りましたら速やかに松代総合センターに返却していただきますようお願い致します。コンテナの回収が進まないようでしたら、今後杏の加工取引が無くなる可能性があります。皆様のご協力をお願い致します。

《なし》

◆第13回薬剤散布について

1. 散布時期:9月3日(水)～9月7日(日) 実際散布日記入 月 日
2. 調 合 量:水100ℓ 当り

農薬名	使用量	対象病虫害	収穫前
展 着 剤	10mℓ	—	—
キノンドー顆粒水和剤	100g	黒斑病・輪紋病	3 日

3. 散 布 量:10a当り⇒棚栽培400ℓ／立木栽培450ℓ以上
4. 留意事項
 - ①収穫間際の豊水には散布しない。
 - ②他の作物にかからないよう十分注意し散布する。

◆豊水荷受について

1. 荷受日時:9月5日(金)・8日(月)・10日(水) 午前9時まで
2. 荷受場所:各流通センター・共選所
3. 荷受方法
 - 1) コンテナは、篠ノ井のりんご用コンテナを使用する。

更北地区のみ、真島フルーツセンターのコンテナを使用する。

 コンテナ（ノバエースも併せて）の貸出準備を致します。必要数量を事前に各流通センター、共選所まで。
 - 2) コンテナの下と中間にクッション材（ノバエース）を敷き、箱の中でぐらつかないように工夫して詰める。
※ノバは切ったり、必要以上に使用しないで下さい。また、他へ流用しないで下さい。
 - 3) 果柄(ほぞ)は短く切り、下向きに詰める。玉の大きさは大小あっても良い。なお、極小すぎないこと。
 - 4) コンテナ毎に、支所支店・組合員コード・氏名を記入した、個票を入れる。
4. 収穫・出荷基準
 - 1) 収穫始めは、満開 1 4 5 日頃から。糖度 1 2 度以上を目安とする。
 - 2) 収穫目安となる果皮色はカラーチャートで 2. 5 ～ 3 とする。
 - 3) 2 回に分けて樹の上・外側・短果枝から収穫する。

◆南水収穫講習会並びに出荷目揃い会開催について

下記により、開催しますので出荷予定者は必ず参集下さい。

本年は、午前に全体で収穫講習会を開催し、午後に分かれて、出荷目揃い会を開催致します。

〔収穫講習会〕

開催日	曜	開催時間	開催場所	担当
9月4日	木	午前9時30分	西澤克敏様園(真島) 場所が不明な方は真島フルーツセンターへ 午前9時15分までに集合	外谷

〔出荷目揃い会〕

開催日	曜	開催時間	開催場所	担当
9月15日	月	午前10時30分	真島フルーツセンター 2階会議室 駐車場所:荷受場所や冷蔵庫前は不可	外谷
		午後2時00分	篠ノ井東部流通センター2階会議室	外谷

1. 3 k g オープン箱（ももとと同じ箱）詰め出荷について、講習会にてお知らせ致します。
2. 熟度調査を行います。収穫適期と思われるものを1個ずつ持参ください。
3. 当日、集荷計画表を配布します。
4. 収穫が早まる場合は、各共選所・流通センターまで連絡をして下さい。
5. 加工の荷受けは例年通り実施致します。講習会で詳細をお知らせ致します。